NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報
第８９号（２０１６１２）
発行　竹 田 幸 男

摂津峡撮影会

■ 寝屋川市民文化祭 映像作品発表会

１１月３日（木・祝）総合センターで開催、９：３０より会員が準備に参加、１０：４０より映写、１２作品（うち５作品は同好会会員作）を３回映写して多くの市民に見て頂きました。

■ 寝屋川市映像協会本年第２回撮影会に参加

１１月１７日（木）９：４５高槻駅集合　映像北大阪の会員も２名参加して送迎バスで祥風苑へ、そこから歩いて摂津峡に向かい当初予定の女性モデルさんと、当

日飛び入りの男性モデルで撮影会を行い、終了後祥風苑で昼食歓談と温泉入浴。１日楽しく過ごしました。

例会の窓

■平成２８年１１月例会
日時：１１月９日（水）１３：３０
場所：市民活動センター４Ｆ　こども部屋
出席者：天野　新井　小笠原　佐伯　妹尾　竹田谷
山元支部長　吉川支部委員
欠席者：１名　　（５０音順・敬称略）

例会次第
１．　報告・連絡事項
（１）会報　小笠原さん

２．協議事項
（１）本年度第２回摂津峡撮影会について
・１１月１５日（火）雨天は１７日（木）JR高槻駅北口京都銀行前９：４５集合
・場所　高槻・摂津峡および祥風荘（北大阪映像４名＋１１名＝１５名参加予定）
・会費２５００円（昼食込み）温泉＋６００円

（２）本年の大阪アマチュア映像祭（１０月３０日）　結果報告
同好会から５名参加し、盛況だった。出品は小笠原、竹田の２点。

（３）今年の市民文化祭結果報告（同好会　６名参加、出品５名）
・総合センター視聴覚室にて１０：４０より３回映写、市民多数が鑑賞された。
準備、鑑賞には協会会員１４人が参加された。

（４）３月のビデオ作品発表会の計画
・９／１１　会場申し込み済み　　・１／１１　出品作品決定
・１／２２　プログラム原稿決定　　・２／８　　プログラム配布
・３／１１　実施
・松愛会にも載せてもらうように手配済み
・各人、今考えている出品作品を確認した。

（５）今年の忘年会　　１２月１８日　９：３０より総合センター視聴覚室で合同例会、その後駅前　がんこへ移動して忘年会（会費４５００円）

（６）新年昼食会の計画　２０１７年1月１１日（水）
・今回は市民活動センターに近いイタリア料理店（ラ・ボッテガ）で実施する。

３．映写・研究発表
（１）竹田さん「メモリーオブ ベルギー・オランダ」これは市民文化祭体験会教室用にショー用に作った、写真を使って動画風に見せる参考作品

（２）新井さん「田んぼアート 遍歴」　９分４０秒

＋どろりんピック（ジェイコムの放送映像）　６分
後者は報道番組、前者は記録を目的とするが、記録といっても作品であれば作者の制作意図が作品に現れるほうが望ましい。

５．各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等

６．来月の例会　１２／１４　１３：３０　市民会館　４Ｆ

ポーランドは 何故親日国家なの

小 笠 原 邦 雄

１９１９年頃、ロシアで革命、反革命の勢力が争う内戦が激しくなっていた。当時、シベリアには、ロシアに滅ぼされたポーランドの政治犯、愛国者の家族など、混乱を逃れて来た人達が１５～２０万人居たそうである。彼らは先の大戦でシベリアで苦難を強いられた我が同胞と同じく重労働、飢餓や病気等で悲惨な生活を送っていた。特に、親と死別した子供たちは、空腹でかつ身を寄せる所さえなく、極限状態に置かれていた。大正８年１０月、アンナ・ビルケウィッチ女史を中心に、ウラジオストクで「波瀾児童救済会」が組織された。

孤児達の受け入れを頼みにしていたヨーロッパ、米国の赤十字は、軍隊の撤退に合わせて本国へ引き上げ、受け入れや、援助が不可能になった。最後の望みを託して日本政府に窮状をを訴え、援助を要請した。日本政府は、孤児達の窮状に理解と同情を示し、１６日間という信じられないスピードで受け入れを決定。日本赤十字に対応を指示した。日赤の行動も素早く、受け入れ態勢を整え、シベリア派遣の日本軍の協力を得て、本格的な救助活動を始めた。大正９年（１９２０年）７月、ウラジオストクから孤児を載せた日本軍の輸送船「筑前丸」が敦賀港に入港。孤児たちは痩せ細って、粗末な服装であった。孤児たちは、敦賀町内の小学校で疲れた体を休め昼食を摂った後、列車で東京に向かった。孤児達のみじめな姿に接した多くの日本人は、同情を寄せ愛情のこもった暖かい救済を始めた。９歳だったワルシャワ在住のハリーナ・ノヴェッカ（故人）さんは、「敦賀の美しい花園のある民家に驚き、バナナやみかん等見たことのない果物を食べ、日本の子供達と遊んだ」と語っていた。

第一次の孤児３７５名は５回にわたっての渡来であった。東京渋谷の「福田会育児所」に収容された。ここは、日赤の病院に隣接し運動場・庭園もあり、素晴らしい環境であった。

大正１１年（１９２２年）には、第二次３８８名は３回に分けての渡来であった。大阪天王寺の「大阪市公民病院看護寄宿舎」に収容された。新築２階建ての未使用

のものであった。上陸地の敦賀では、お菓子・玩具・絵葉書等を差し入れた。第一次の孤児達と同様に、栄養失調で、歩いてもフラフラする状態であった。多くは、腸チフス、感冒、百日咳などの病気であったため、すぐ治療が施された。服はボロボロ、靴も履いていない状態。日赤は肌着、衣服、靴、靴下などを新調し、食事、果物などを支給した。また、慰安会を開いたり、動物園、博物館への接待もしている。

貞明皇后からの御下賜金が届けられ、全国からも多くの寄付金が寄せられた。孤児達は、規則を守り、朝夕のお祈りを欠かさなかった。病院では病室を準備、安全確保のため警察官の配備をした。孤児達の周りには善意が満ちあふれていた。

日本での生活に慣れた頃、悲しい出来事が発生。懸命に世話をしていた看護婦の松澤フミさんが、腸チフスに感染し、２３歳の若さで殉職した。事情の分からない幼子は、松澤看護婦の名前を呼び続け、周りの人々の涙を誘った。彼女には、大正１０年に、ポーランドから赤十字賞、昭和４年には名誉賞が贈られている。

孤児達との別れの日、船のデッキに孤児達が並び、「君が代」「ポーランド国歌」を涙ながらに歌った。孤児達が少しでも楽しいようにと、バナナやお菓子が配られていた。孤児達は皆、親身になって世話をしてくれた日本の母との別れに悲しみ、乗船するのを嫌がって泣く子もいた。元孤児のハリーナ・ノヴェッカさんは「誰もが日本に残ることを望んでいた。太陽が綺麗で美しい夏があり、海があり、花が咲いている日本に・・・」と回想していた。

「ありがとう」「さようなら」の声はいつまでも鳴りやむことはなかった。日本で覚えた歌を元気よく歌った。精いっぱい感謝の気持ちを表そうとする姿に、見送る人々は涙で一杯。

無事ポーランドに帰還した孤児の一人、イエジ・ストシャウコフスキが中心になって、ポーランドを占領したナチスドイツに対して、レジスタンス運動をしていた。活動の拠点・孤児院にナチスドイツの軍人が乗り込んだときに、日本大使館書記官が、「この孤児院は日本帝国大使館が保護している！ 日本の歌を聞かせてやってくれ。」と、彼らは「君が代」「愛国行進曲」などを大合唱した。陰ながら日本は、彼等の援助をしていたのである。三国同盟を結んでいる日本大使館にナチスドイツといえども手出しができなかった。

阪神大震災の翌年、震災孤児３０人が３週間ポーランドに招待された。一人の少年が片時もリュックを離さないのを見た、世話をしているポーランドの夫人が理由を尋ねた。地震で一瞬にして親・兄弟を亡くし、家も丸焼けになった。リュックの中身は、焼け跡で見つけた遺品だと説明。ご婦人は不憫で涙が止まらなかったそうである。

日本に救済された４人の元孤児が、日本から震災孤児がやって来ることを聞き、体が不自由なご高齢にもかかわらず、７５年前の自分達の姿を思い出させる可愛そうな子供達にどうしても会いたいと参加された。シベリア孤児救済の話を聞かせたい。お礼を言いたいとの気持ちの表れだった。老婆たちは、涙ながらにバラの花を震災孤児一人一人に手渡した。会場は、万雷の拍手に包まれ感動のルツボであった。

最後に、ポーランド極東委員会の当時の副会長・ヤクブケヴィッチ氏の「ポーラ

ンド国民の感激、我らは日本の恩を忘れない」と題した礼状（要旨）を紹介したい。「我々の児童達をしばしば見舞いに来てくれた裕福な日本人の子供達が、孤児達の惨めな服装を見て、自分の着ている最もきれいな服を脱いで与えようとしたり、髪に結ったリボン、櫛、飾り帯、さては、指輪まで取って与えようとした。このようなことは、一度や二度ではない。しばしばであった。ポーランド国民もまた、高尚な国民であるが故に、我々はいつまでも恩を忘れない国民であることを日本人に告げたい。ここに、ポーランド国民は日本に対して、最も深い尊敬、最も深い感銘、最も深い感恩、最も暖かき友情、愛情を持っていることをお伝えしたい。」と。

ＡＶＣメモ

音 声 合 成 の 調 教

竹 田 幸 男

映像作品をわかりやすくするにはナレーションが欠かせません。でも、うまくしゃべるのは難しいし、うまくしゃべる人に頼むには費用がかかったりします。そういうときに手軽に使えるのが人工の音声、音声合成です。最近では、かなり人間の声に近いものが比較的低価格で得られるようになり、工夫次第では、これは音声合成です、と言わないと気が付かない人もある、というほど、うまくしゃべってくれています。

音声合成には、いろいろなやり方が研究されていて、大きく分けてフォルマント合成法というのは、たとえば、白色雑音のようにあらゆる周波数の音が混ざり合った信号を人間の発声器官の特性を真似たフィルターを通して音声を作るという方法がありますが、今、市場に多く出回っているものは音素片合成法、素片接続型、波形接続形などといって、人間があらかじめ発声した声を録音して、一つ一つの音素、たとえば日本語であれば「ア・イ・ウ・エ・オ・・・」のように分解して保存しておき、文章（テキスト）に合わせて繋いでいって言葉として出力するものです。

手軽に入手できる音声合成ソフトウエアとして、株式会社　エーアイが発売している、「かんたんＡＩＴａｌｋ（かんたんエーアイトーク）」と、ワープロソフト一太郎に搭載されている「詠太」があります。詠太はＨＯＹＡ（株）が発売している「Ｖｏｉｃｅ　Ｔｅｘｔ」の機能限定版と思われます。

株式会社エーアイ　http://www.ai-j.jp/
ＨＯＹＡサービス株式会社 http://voicetext.jp/

私が今持っている前者は、かんたんＡＩＴａｌｋ ３ バージョン５．０．２で、５人の話者があり、「あんず」（舌足らずの幼女）、「かほ」（少し落ち着いた若い女性）、「ななこ」（中年の落ち着いた女性）、「のぞみ」（元気な若い女性）、「せいじ」（若い男性）と言う名前を持っています。

そして「音量」を０～２．０の範囲で、「話速」を０．５～４．０の範囲で、「高

さ」を０．５～２．０の範囲で、「抑揚」を０．０～２．０の範囲で連続的に変化できるほか、アクセント辞典を持っており、単語ごとにアクセントを設定して辞典に登録すれば、以後、同じ言葉が出てくると登録したアクセントで読み上げてくれます。

また、言葉と言葉の間に「間（ま）」を取りたいときは、「＃」「@」「■」「●」「▲」を入れることにより、それぞれのマークごとにあらかじめ設定した８０～５００ミリ秒（ミリ秒は１／１０００秒）の「間」を取ることが出来ます。商品名の頭に「かんたん」とあるのは、アマチュア用のローコスト版で、商業利用のものには、もっと多くの話者があるようです。

一太郎付属の詠太３には、「ＭＩＳＡＫＩ」（若い女の子）、「ＳＡＹＡＫＡ」（中年の落ち着いた女性、「ＳＨＯＷ」（若い男性）の３人の話者が居り、「再生スピード」（５０～２００％）、「間の設定」「辞書作成ツール」があり、間の設定では、たとえば「句点（、）」では０．１秒－０．３秒－０．８秒－１．０秒－１．５秒と、それぞれ設定することができ、このような設定は「読点（。）」、「三点リーダ（・・・）」、「ダッシュ（ー）」、「閉じ括弧（）」のそれぞれに対して、あらかじめ設定することが出来ます。

私が使った感じでは、詠太よりＡＩＴａｌｋ ３の方が、細かいチューニングが出来ますが、詠太の方が音質は良いように思います。ＡＩＴａｌｋ ３では「かほ」、「のぞみ」に、少しノイズが多いようで、その点、後から追加された、「ななこ」の方がノイズが少なく音質が改良されているという感じでした。これは「ななこ」の声は低音成分が多く、高音成分が少ないのでノイズが出にくいのではないかと思います。「かほ」「のぞみ」を使う場合は、録音した後、高域を落とすフィルタをかけてやればノイズ感は低減されますが、余りきつくかけると高音が低下して聞き取りにくくなります。

ＡＩＴａｌｋ ３の方は、音声に変換した結果を音声ファイルにしてくれますので、そのまま編集ソフトの音声タイムラインに貼り付けることが出来ますが、「詠太」の本来の目的はワープロで作成した文書を読み上げることなので、パソコンのイヤホン端子の音声出力を別の録音機器で録音してやらなければならないのが一手間かかります。

音声合成を使って自然なナレーションを得ようとするには、かなり工夫が必要です。アクセント辞典を使っても、完全に人間と同じようには、しゃべってくれないときがあります。そういうときは原稿の言葉自体を、同じ意味を持つ違う言葉や、違う言い回しに変えてやる必要があります。漢字をうまくしゃべれないときは仮名に直してみるのも一法です。また、ＡＩＴａｌｋでは抑揚を付けるとは言っても、人間と同じように感情を入れてしゃべることは苦手なので、言葉による微妙な感情の表現については、まだまだ人間にはかないません。ＨＯＹＡでは感情音声合成というたい文句を使っています。例文を再生してみましたが、かなり感情がこもった表現をしてくれます。しかしこれは業務用の商品と思われ、多分高価なものであ

ろうと思われます。私たちが手軽に利用できるバージョンにはこのような機能はありません。それと、「間」については、記号に間の時間を設定して空白時間を取ることが出来ますが、間、というのはほんとうに微妙な物なので、言葉の置かれた位置や、前後の言葉によって、また映像の内容によって、その場、その場で出来上がった音声を切り刻んで、それぞれの内容に合った間を取るべきだと思います。この「間」の取り方によって作品の善し悪しまでも左右する「『魔』力」があると私は思っています。

　このように音声合成を利用するときも、簡単に文字を入力したらしゃべってくれる、と、やりっぱなしにするのではなく、出来上がった音声を聞いて、こまめに、愛情をもって「調教」してあげることが音声合成を使った作品により良い結果をもたらすものと思っています。 ■

★お願い この会報をお読み頂いている方も多いと思います。今は読んで頂くだけの一方通行ですが、ご意見、ご感想などお寄せ頂ければ有難く思います。
メールアドレスm-pic@outlook.jp（竹田）まで、ご連絡をお待ちしています。

寝屋川映像同好会　会員募集

当会では会員を募集しています。松愛会会員とそのご家族であれば、
所属支部に関係なく入会して頂けます。

【活動内容】

■**例会**：日時：毎月第２水曜日　１３：３０～１６：３０
会場：寝屋川市民会館４階・市民活動センター
（寝屋川市秦町４１－１　無料駐車場あり）
活動内容：各人の作品の映写と検討、映像制作上の質疑応答、
活動の打ち合わせ等

■撮影会：年２回程度

■**公開作品発表の機会**：毎年１１月・寝屋川市民文化祭・映像作品発表会
毎年１０月頃　大阪アマチュア映像祭
２年に１回　映像同好会ビデオ作品発表会
２年に１回　寝屋川映像フェスティバル

■**懇親会**：１月の例会前　新年食事会
１２月　忘年会

■その他随時研究会や講習会・レクリエーションなど開催

■**会費**：入会金　３，０００円　年会費３，０００円

■**連絡先**:メールアドレスm-pic@outlook.jp（竹田）